



©Ludwig Olah

レヴァント・バキルチ／ エフゲニー・オネーギン

アンカラ生まれ。2018年9月までアンサンブル・メンバーとしてニュルンベルク州立劇場に所属し、《真珠採り》ズルガ、《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《ラ・ボエーム》マルチェット、《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵、《カルメン》エスカミーリョ、《魔笛》パパゲーノ、《アルジェのイタリア女》タッデオなどを歌う。

2018年にルイージ・ダッラピッコラ《囚われ人》のタイトルロールでフィレンツェ五月音楽祭にデビュー。2019年も同音楽祭に出演し、ファビオ・ルイージの指揮でアリベルト・ライマン《リア》のグロスター伯爵を歌っており、さらに2020年もズービン・メータの指揮で《フィデリオ》のピツァロを歌う。

このほか最近の出演は、チリ・サンティアゴ市立劇場で《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、パルマ・ヴェルディ・フェスティバルで《王国の一日》ケルバール男爵など。また、トゥールーズ・キャピトル劇場、ポーランド国立歌劇場、シュトゥットガルト州立歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場、ミュンヘン放送管弦楽団にも出演している。



©Kristina Kalinina

アンナ・ネチャーエヴァ／ タチヤーナ

最近と今後の出演は、《マノン・レスコー》マノン、《ラ・ボエーム》ミミ、《イーゴリ公》ヤロスラーヴナ、《カルメン》ミカエラ、《スピードの女王》リーザ(ボリショイ歌劇場、サンカルロ劇場)、《エフゲニー・オネーギン》タチヤーナ(エクサンプロヴァンス音楽祭、サヴォンリンナ・オペラ祭、ワシントン・ナショナル・オペラ、ポーランド国立歌劇場、ボリショイ歌劇場)、《イオランタ》タイトルロール(サヴォンリンナ・オペラ祭)、《賭博者》ポリーナ(フランドル歌劇場)、ブリテン《戦争レクイエム》ソプラノ独唱(アントニオ・パッパーノ指揮／ベルリン国立歌劇場)など。メトロポリタン歌劇場デビューやベルギー王立モネ劇場への再登場など、今後も多忙なシーズンが続く。ほかに《椿姫》ヴィオレッタ、《ジャンニ・スキッキ》ラウレッタ、《トゥーランドット》リユー、《イーゴリ公》ヤロスラーヴナ、《ドン・カルロ》エリザベッタ、《チャロデイカ》ナスターシャ、《道化師》ネッダ、《タンホイザー》エリーザベトなども歌っている。



©Sandro Scalia

パオロ・ファナーレ／ レンスキー

パレルモ生まれ。パドアの《ドン・ジョヴァンニ》オッターヴィオでデビューして以降、スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ロイヤル・オペラ・ハウス、パリ・オペラ座、バイエルン州国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、シャンゼリゼ劇場、ドレスデン州立州歌劇場、ローマ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、聖チェチーリア国立音楽院などに出演。《皇帝ティートの慈悲》《ファウスト》タイトルロール、《ファルスタッフ》フェントン、《トロイアの人々》ヒュラス、《ロメオとジュリエット》ロメオ、《愛の妙薬》ネモリーノ、《魔笛》タミーノ、《ペレアスとメリザンド》ペレアス、《コジ・ファン・トゥッテ》フェルランド、《後宮からの逃走》ベルモンテ、《カプレーティとモンテッキ》テバルド、《ジャンニ・スキッキ》リヌッチョ、《ランメルモールのルチア》エドガルド、《ルクレツィア・ボルジア》ジェンナーロなどを歌う。J.レヴァイン、C.アバド、K.マズア、Z.メータ、M.マリオッティ、D.ガッティ、J.サヴァールと共演。



©Rod Evans

リンゼイ・アンマン／ オリガ

米国出身のオペラ界の新星。2018／19年シーズンは、《修道女アンジェリカ》公爵夫人、《ジャンニ・スキッキ》チェスカでメトロポリタン歌劇場、《エフゲニー・オネーギン》オリガでワシントン・ナショナル・オペラ、《リゴレット》マッダレーナでセントルイス・オペラ・シアターに再登場し、《ルサルカ》イェジババでマディソン・オペラにデビュー。《ワルキューレ》ロスヴァイセでメトロポリタン歌劇場に(DVD)、《ラインの黄金》と《ジークフリート》のエルダ、《ワルキューレ》シュヴェルトライテ、《神々の黄昏》第1のノルンでワシントン・ナショナル・オペラに、《ラインの黄金》フロスヒルデでシカゴ・リリック・オペラになど、《ニーベルングの指環》でデビューを飾る。演奏会ではヘンデル、メンデルスゾーン、ロッシーニ、ヴェルディ、マーラー作品をレパートリーとし、ピッツバーグ響、エリー・フィル、サウスダコタ響と共演。今後はダラス・オペラで《金鶏》アメルファを歌い、《ニーベルングの指環》でシカゴ・リリック・オペラに再登場する。



アレクサンダー・ヴィノグラドフ／ グレーミン公爵

モスクワ生まれ。国際的に知られ、21歳でボリショイ歌劇場に《ノルマ》オロヴェーゾでデビューして以降、世界の主要音楽祭や歌劇場に出演し、グスターヴォ・ドゥダメル、ダニエル・バレンボイム、ケント・ナガノ、ヴラディーミル・ユロフスキ、ヤニック・ネゼ＝セガン、ロリン・マゼール、マリス・ヤンソンス、ズービン・メータ、プラシド・ドミンゴ、ワレリー・ゲルギエフ、フィリップ・ジョルダン、アントニオ・パツパーノ、セミヨン・ビシュコフ、ユーリ・テミルカーノフ、ワシリー・ペトレンコ、ドミトリー・キタエンコなどと共演。主要レーベルで録音多数。今シーズンはメトロポリタン歌劇場、ダラス・オペラ、ロイヤル・オペラ・ハウスで《カルメン》エスカミーリョ、ロサンゼルスで《ドン・カルロ》フィリッポ、ハンブルクで《ナブッコ》、バレンシアで《ランメルモールのルチア》、来シーズンはバルセロナ・リセウ劇場で《トゥーランドット》、アテネで《ドン・カルロ》、ミュンヘン、北京、アムステルダムで《カルメン》、チューリヒで《シチリアの晩鐘》に出演。



ドリス・ランプレイト／ ラーリナ夫人

パリで声楽を学ぶ。イタリア、フランス、ドイツ語を自在に操り、ヴェルディ作品（ストラスブール《リゴレット》、オランジュ《椿姫》）、オッフェンバック作品（パリ・バステューユ座《盗賊》、アーノンクール指揮／チューリヒ《美しきエレーヌ》、マルセイユ《ペリコール》、トゥール《パリの生活》）、モーツァルト作品（エクサンプロヴァンス、リヨン、オランジュ《魔笛》）、ベルク作品（メス《ルル》）で称賛される。パリ・オペラ座で《ヘンゼルとグレーテル》魔女、《プラター》ジュノン、《死の都》ブリギッタ、アムステルダムとパリで《ファウスト》マルト、ストラスブール、ジュネーヴ、ニース、ミュンヘンで《ハムレット》ガートルード、《フィガロの結婚》マルチェリーナ、《エフゲニー・オネーギン》ラーリナ夫人、ナント、アンジェで《カルメル派修道女の対話》クロワシー夫人など幅広い役を歌う。今後はトゥーロンで《アンドレア・シェニエ》、ナンシーで《サンドリヨン》、マルセイユで《エフゲニー・オネーギン》、ベルリンで《カーチャ・カバノヴァー》に出演する。



©Lou Freeman

ラリッサ・ディアトコーヴァ／ フィリーピエヴナ

マリンスキー劇場でプリンシパル・アーティストとして音楽監督ワレリー・ゲルギエフと共演を重ねる。イライダ・レヴァンドに師事し、レニングラード音楽院を卒業。ロシア国外におけるオペラ歌手デビューは、1991年ブレゲンツ音楽祭の《マゼッパ》リュボフ。ヴェリズモ・オペラでも知られており、フィレンツェ五月音楽祭の《仮面舞踏会》ウルリカで国際的に活躍するアーティストとして定着。その後、《アイーダ》アムネリスで再びフィレンツェ五月音楽祭に登場し、ズービン・メータが指揮する1996年来日公演にも出演した。最近の主な出演は、パリ・オペラ座で《ルサルカ》イェジババ、《スペードの女王》伯爵夫人、《ホヴァンシチーナ》マルファ、バイエルン州立歌劇場とネーデルラント・オペラで《スペードの女王》伯爵夫人、ハンブルク州立歌劇場で《ファルスタッフ》クイックリー夫人、バイエルン州立歌劇場、ヒューストン・グランド・オペラ、ウィーン国立歌劇場、NTRオペラ・ライヴで《エフゲニー・オネーギン》フィリップエヴナなど。



©Simon Pauly

キース・ジェイムソン／ トリケ

サウスカロライナ州出身。2018/19シーズンは、サンフランシスコ・オペラの《It's a Wonderful Life》ビリーおじさん役を皮切りに、《ファルスタッフ》バルドルフォでメトロポリタン歌劇場に再び登場し、シンシナティ・オペラで《フィガロの結婚》バジリオを歌う。最近では、パレルモ・マッシモ劇場でブリテン《真夏の夜の夢》のシスビー／フルートを歌ったほか、《トゥーランドット》ポンでシカゴ・リリック・オペラに再び登場し、《ジャンニ・スキッキ》ゲラルドと《子どもと魔法》小さな老人／ティーポット／雨蛙で小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトにも再び登場している。今後は、《フィガロの結婚》バジリオと《ばらの騎士》でメトロポリタン歌劇場に、ヘンデル《サウル》の諸役とシュトラウス《サロメ》の第1のユダヤ人でヒューストン・グランド・オペラに再び登場する。



©Lawrence Brownlee

デイヴィッド・ソアー／ 隊長、ザレツキー

ノッティンガムシャーに生まれ、英国王立音楽院とナショナル・オペラ・スタジオに学ぶ。2018／19年は英国ナショナル・オペラの《ラ・ボエーム》コッリーネ、ロイヤル・オペラ・ハウスの新演出《ビリー・バッド》フリントで活躍。演奏会はM.エルダー指揮／ハレ管《ファウストの劫罰》、A.アルティノグル指揮／リヨン国立管《ロメオとジュリエット》ロラン神父、P.マクリーシュ指揮／バーゼル室内管のヘンデル《スザンナ》など。最近はメトロポリタン歌劇場の《ラ・ボエーム》、《ドン・ジョヴァンニ》、グラインドボーン音楽祭の《カルメン》、《ドン・ジョヴァンニ》、《ルクレティアの凌辱》、マドリッド・リアル劇場の《グロリアーナ》、グレインジ音楽祭の《セビリヤの理髪師》、ウェールズ・ナショナル・オペラの《リゴレット》、C.マッケラス指揮／ベートーヴェン《交響曲第9番》の演奏会にも出演。いずれもA.デイヴィス指揮／BBC響との共演による《ジェロンティアスの夢》、《ロメオとジュリエット》の録音(Chandos)がある。